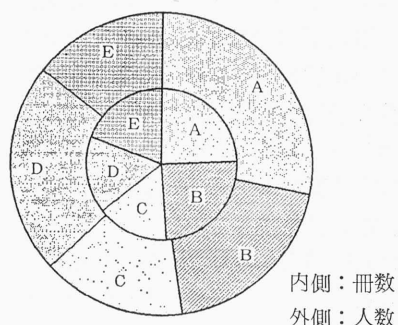


身分別閲覧内訳

身 分	人	%	冊	%
A 卒 業 生	499	28.0	1,940	24.3
B 教 官	349	19.6	1,952	24.5
C 大学院生	274	15.4	1,227	15.4
D 学部学生	401	22.5	1,306	16.4
E そ の 他	260	14.6	1,555	19.5
合 計	1,783		7,980	



昭和63年度 調査研究員の委嘱

このたび、昭和63年度附属図書館調査研究室の調査研究員に下記三名の教官が委嘱されました。委嘱期間はいずれも昭和63年4月1日から昭和64年3月31日までです。

文 学 部 ：日野龍夫教授
調査研究事項：「大惣本」目録解題作成

大型計算機センター：星野 聡教授
調査研究事項：目録カードによる遡及入力の研究

大型計算機センター：金沢正憲助教授
調査研究事項：遡及入力標準フォーマットの設定

図書館の「課」名変更

附属図書館の「課」の名称が昭和63年4月8日付で変更になりました。これは学術情報システムの進展をはじめとして、時代の変化に即応した名称に変えようとするもので、95の国立大学図書館のうち、部課制を採用している26大学に同時に適用されるものです。

課名の変更は以下のとおりです。

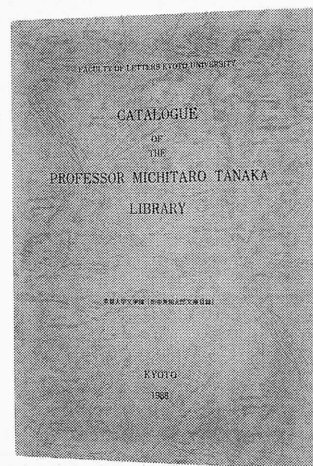
〈前〉	→	〈新〉
○総 務 課	→	(変更なし)
○整 理 課	→	情報管理課
○閲 覧 課	→	情報サービス課
学術情報課	→	情報システム課
医学情報課	→	(変更なし)

(○印は京都大学の場合です)

「田中美知太郎文庫目録」の刊行

本学名誉教授故田中美知太郎博士の所蔵されていた洋書(2104部、2974冊)を、昌子夫人をはじめ御遺族の御好意により、文学部に御寄贈いただいた。文学部整理掛では、これら貴重な図書の整理を終え、このたび「CATALOGUE OF THE PROFESSOR MICHITARO TANAKA LIBRARY」(京都大学文学部「田中美知太郎文庫目録」として冊子体で刊行した。

田中美知太郎先生は、明治35年新潟でお生まれになり、大正15年京都帝国大



学文学部選科修了後、昭和22年から京都帝国大学文学部哲学科哲学史第5講座（現第2講座）を担当され、以後昭和40年京都大学を定年退職される迄、多くの後進の指導と育成に当たられた。本学を退職後も龍谷大学教授等を歴任されたが、昭和60年12月18日に御逝去になった。享年83才

先生は哲学研究の正道として、古代ギリシアにおける哲学の源流にさかのぼり、さらに文学・歴史を含めた西洋古典文献学全般にわたる広い学殖を極められ、これらの分野の本格的研究のために確実な基礎を与えられた。これらの業績に対して、文化勲章をはじめ、数多くの賞を授与されている。

本文庫には、'ギリシア・ローマ時代の哲学・文学・歴史、特に、プラトン、アリストテレスに関する専門の文献をはじめ、中世・近世の哲学書等が幅広く含まれている。現在日本ではほとんど手にすることの出来ない貴重なものも多く、

Diogenes Laertius. Diogenis Laertii De vitis, dogmatibus et apophthegmatibus clarorum philosophorum libri X. 1692.

Aristoteles. Aristotelis Stagiritae Organum. Averrois Cordubensis in hoc ipsum commentaria. 1574.

Plutarchus, of Chaeronea. Πλουτάρχου Χαερωνέως τὰ σωζόμενα πάντα. 1599.

Descartes, René. Renati Des-Cartes Opera philosophica. 1692.

等、1500～1700年代の図書も54冊ある。

これらの図書は、文学部史学科書庫に備付けているが、“幅広い関係者に大いに使って欲しい”という先生並びに御遺族のご希望もあり、多くの方々の積極的な利用をお願いしたい。

（文学部）

「新入生のための Library Guide」発行

京都大学には附属図書館、教養部図書館のほか各学部・研究所等にも55の図書館（室）があり現在、蔵書数は図書約467万冊、雑誌約5万5千タイトルを所蔵しています。

今年度は新入生が最初にもっともよく利用する教養部図書館と附属図書館を紹介するために小冊子“ライブラリーガイド”を発行し、各学部事務室（教務掛）を通じて新入生全員に配布しました。

このライブラリーガイドでは、図書のさがし方、目録カードの見方、貸出返却、相互利用、レファレンスサービス等、図書館の利用全体にわたって、ユニークなイラスト入りで説明しています。

この利用案内を参考にして、分からないことなどは遠慮なく職員に質問・相談して、図書館を積極的に利用されるよう期待しています。

なお、附属図書館と教養部図書館の利用には、「図書館利用証」が必要ですので、附属図書館のインフォメーションカウンターで手続を済ませて下さい。

